

【巻頭言】 鉄縁 ―鉄道との不思議なご縁―

室谷正裕 Muroya Masahiro

今から半世紀以上も前のこと。私の郷里、兵庫県は丹波篠山を走る国鉄篠山線（篠山口～福住：17.6 km）が全国の赤字ローカル線の先陣を切って廃止された。当時中学生だった私は、町への通学や買い物が不便になったことに加え、乗り継げば東京まで鉄道でつながっているとの安心感、一体感のようなものが断ち切られたことで、いよいよ田舎になってしまったとの疎外感、見捨てられた感は今でも忘れることはない。

鉄道ロス、これが鉄道を意識した最初の出来事である。その時の恨み、憤り、無念さを胸に、ダメ元で就職先として運輸省（現国土交通省）の門をたたいたのが今から45年前。何かの手違いか何と採用されるという不思議なご縁が始まった。

ただし、面接時の、余りに効率性重視、採算性偏重の当時の鉄道政策批判が祟ったのか、鉄道局からは一向にお呼びがかからない。

35年余の霞ヶ関人生で鉄道局勤務は入省後25年経った2003年からの同局財務課長としての2年間、一回限りであった。

その財務課でのこと。着任早々、古参の補佐から、「いずれも千葉方面の鉄道会社で、大変な（＝厄介な）会社があり、中でも『北総鉄道』という会社は、債務超過は勿論のこと、400億を超える累損を抱え、日本一高い運賃をめぐっては沿線関係者といつももめている。

またぞろ（ということは初犯ではないということか）破綻の危機が迫っており、当座の資金繰りのため、最大の債権者である日本鉄道建設公団（今の鉄道・運輸機構）はじめ、京成電鉄やUR都市機構、千葉県等と協議し、直ちに支援策を講じないと経営破綻は必至です。」との衝撃的な報告を受けた。

嗚呼！それから20年後に当の鉄道会社の経営に携わることになるとは・・・、あの時、抜本的な支援策を講じていれば・・・、これも不思議なご縁というべきか。

その北総鉄道では、その後、先人、関係者、中でもご利用いただいたお客様のお陰をもって、幾多の困難を乗り越え、累積損失も解消。

会社創立50周年の節目に当たる2022年には、長年の懸案であった運賃値下げが実現できたことは、経営を預かる者としては勿論のこと、浅からぬ因縁があっただけに個人的にも秘かにホッとしている。

値下げの効果は着実に表れてきており、特に通学定期を思い切って3分の1に下げたことで学生さんのご利用が大幅に増えたり、若い世代の沿線への移住が進んでいるのはうれしい限りである。

実は、不思議なご縁はまだ続く。値下げを検討していた時に予想もしない新型コロナウイルスが発生。外出の抑制等により経営は大打撃を受け、長期収支のシミュレーションも何度も何度も見直す事態に。

そのような困難な時に、当時の国土交通大臣がS大臣であられたのは何とも心強い限りであった。というのは、S大臣は北総線沿線にお住まいになっておられたことがあり、かねてより、北総鉄道の高運賃問題、経営問題には心を痛めておられた由。S大臣からは、親身になってご心配、ご指導、ご支援をいただいた。誠に僭越かつ勝手ながら、私としては有難いご縁と感謝に堪えない。

さて、昨今、鉄道のフェードアウトが気になるところ。2000年以降だけでも廃止になった鉄道路線延長は1200キロ余、東京～博多～熊本間の距離にも相当する。

首都圏近郊でも鉄道の存廃が取り沙汰されている。時代の流れということにもなるのであろうが、役割を果たしきってのハッピーリタイアであれば心からお疲れ様、ご苦労様でしたということであきらめもつくが、まだ余力を残しての不本意な、半ば強制的なリタイアであるとすれば何とも割り切れないものがある。

在官時にできれば良いなと思い描いていた「鉄道の全人格的評価」、今で言う、いわゆる「社会インフラ」、「社会的共通資本」として多面的にその存在価値が評価されたうえで、そのありようが議論され、判断されることを願っている。

自分の経験からしても、鉄道が廃止されて栄えた町はない。

また、鉄道の側からも、いろんなご縁を求めた積極的なアプローチも大事である。

接点となる出会いは、日々の通勤・通学にとどまらない。

観光、イベント、街づくり、地域のアイデンティティ、安心感、郷土愛・・・、鉄道の持つ魅力を大いにアピールして、側面から支援するという発想ではなく、自分たちの財産なのだから、それを保全し、良くしていくのは当たり前という関係性にまでご縁が発展し、絆になれば素晴らしいことだと思う。

今回の本誌の特集は「鉄道の災害と防災」とのこと。災害の頻発と激甚化。被災が即廃線につながらないよう、防災と災害復旧に関係者の知恵と協力、特に行政の主体的なご支援をお願いしたいものである。

お蔭様で、私も、鉄道にいただいたご縁で人生、様々な経験をさせてもらった。そのご縁に感謝し、末永く、日夜その鉄道を動かし続けておられる鉄道関係者の皆様に感謝しながら、ありがたく利用させていただこうと思う。そのことが「恩送り」につながるならば望外の喜びである。

むろやまさひろ
室谷正裕 氏

北総鉄道株式会社代表取締役会長



1979年運輸省入省、航空局総務課に配属後、JNT0、愛知県出向等を経て2003年国土交通省鉄道局財務課長、その後航空局飛行場部長、管制保安部長、関西国際空港株式会社常務取締役、運輸安全委員会事務局長を歴任し、2014年国土交通省を退官。

一般社団法人日本民営鉄道協会常務理事を経て京成電鉄株式会社常務取締役鉄道本部長に就任、2018年北総鉄道株式会社代表取締役社長を兼任、2020年京成電鉄株式会社専務取締役鉄道本部長、2023年より現職。